

本品はにおいがなく、味はないが粘滑性である。

#### 確認試験

(1) 本品の粉末 1 g に水 50 mL を加えるとき、ほとんど均等のやや混濁した粘性の液となる。

(2) 本品の粉末に希ヨウ素試液を加えて鏡検するとき、青色を呈するでんぶん粒の少数を認める。

純度試験 カラヤゴム 本品 1 g に水 20 mL を加え、煮沸して粘稠性のある液とし、これに塩酸 5 mL を加え、更に 5 分間煮沸するとき、液は淡赤色～赤色を呈しない。

灰分 4.0 % 以下。

## トラガント末

Powdered Tragacanth

### TRAGACANTHA PULVERATA

本品は「トラガント」を粉末としたものである。

性状 本品は白色～帯黄白色を呈し、においはなく、味はないが粘滑性である。

本品をオリブ油又は流動パラフィンに浸して鏡検するとき、多数の有角性の破片からなり、少量の円形又は不整形薄片、少量のでんぶん粒を認める。でんぶん粒は球形～だ円形の単粒、ときに 2～4 個の複粒で、単粒の径は 3～25 μm である。本品は水にあうと膨化して変形する。

#### 確認試験

(1) 本品 1 g に水 50 mL を加えるとき、ほとんど均等のやや混濁した粘性の液となる。

(2) 本品に希ヨウ素試液を加えて鏡検するとき、青色を呈するでんぶん粒の少数を認める。

純度試験 カラヤゴム 本品 1 g に水 20 mL を加え、煮沸して粘稠性のある液とし、これに塩酸 5 mL を加え、更に 5 分間煮沸するとき、液は淡赤色～赤色を呈しない。

灰分 4.0 % 以下。

貯法 容器 気密容器。

## 歯科用トリオジンクパスタ

Dental Triozinc Paste

本品は「パラホルムアルデヒド」、「チモール」、無水硫酸亜鉛及び「酸化亜鉛」を含む散剤と、「クレゾール」、「カリ石ケン」及び「グリセリン」を含む液剤とからなる。用時両者の適量を研和して使用する。

#### 製法

##### (1) 散剤

パラホルムアルデヒド, 細末	10 g
チモール, 細末	3 g
硫酸亜鉛	9 g
酸化亜鉛	82 g
全量	約 100 g

「硫酸亜鉛」をあらかじめ約 250 °C で加熱して無水硫酸亜鉛とし、冷後、細末としてこれに「チモール」、「パラホルムアルデヒド」及び「酸化亜鉛」を均等に混和して製する。

##### (2) 液剤

クレゾール	40 g
カリ石ケン	40 g
グリセリン	20 g
全量	100 g

「カリ石ケン」を「クレゾール」及び「グリセリン」の混液中に溶かして製する。

性状 散剤は白色微細の粉末で、特異なにおいがあり、液剤は黄褐色～赤褐色澄明濃稠の液で、クレゾールのにおいがある。

貯法 容器 気密容器。

## トロンビン

Thrombin

本品はヒト又はウシの血液から製したプロトロンビンに、カルシウムイオンの存在で、トロンボプラチンを作用させて製し、滅菌して凍結乾燥したものである。

本品は定量するとき、表示されたトロンビン単位の 80～150 % を含む。

本品 1 mg は 10 単位以上を含む。

性状 本品は白色～淡黄色の無晶形の物質である。

本品 500 単位当たりの量を生理食塩液 1.0 mL に溶かすとき、1 分間以内に澄明又はわずかに混濁して溶ける。

乾燥減量 3 % 以下 (0.05 g, 減圧, 酸化リン (V), 4 時間)。

無菌試験 試験を行うとき、これに適合する。

#### 定量法

(1) フィブリノーゲン溶液 フィブリノーゲン約 0.03 g を精密に量り、生理食塩液 3 mL に溶かし、トロンビン約 3 単位を加えて、時々振り混ぜながらじゅうぶんに凝固させ、析出した凝固物質を分取し、洗液に硝酸銀試液を加えても混濁しなくなるまで水でよく洗い、105 °C で 3 時間乾燥し、質量を量り、凝固物質のパーセント (%) を計算する。ここに得たパーセント (%) から別にフィブリノーゲンを凝固物質の量が 0.20 % になるように生理食塩液に溶かし、0.05 mol/L リン酸水素二ナトリウム試液(必要ならば、0.5 mol/L リン酸水素二ナトリウム試液を用いる)で pH を 7.0～7.4 に調整した後、0.10 % となるように生理食塩液を加える。

(2) 操作法 トロンビン標準品を生理食塩液に溶かし、この液 1 mL 中に 4.0, 5.0, 6.2 及び 7.5 単位を含む 4 種の標準溶液を製する。あらかじめ 20～30 °C の間の任意の温度で ±1 °C に保った標準溶液 0.10 mL を内径 10 mm, 長さ 100 mm の小試験管に正確に量り、これにあらかじめ同じ温度に保ったフィブリノーゲン溶液 0.90 mL をピペットを用いて吹き込み、同時に秒時計を動かし、穏やかに振り混ぜながら、最初にフィブリンの凝固が起こるまでの時間を測定する。4 種の標準溶液につき、それぞれ 5 回ずつ測定を行い平均値を求める。ただし、5 回の測定で、最大と最小との差が平均値の 10 % 以上のときは、実験をやり直す。標準溶液の濃度は、凝固時間が 14～60 秒の範囲内で適当に変えてよい。測定は前記と同じ温度で行う。次に本

品 1 容器中の全内容物の質量を精密に量り、これを生理食塩液に溶かし、1 mL につき、約 5 単位を含む液を製し、その 0.10 mL を用いて前記の操作を 5 回行い、凝固時間を測定し、平均値を求める。両対数グラフの横軸に単位を、縦軸に凝固時間をとり、4 種の標準溶液による凝固時間の平均値をグラフ上にとり、検量線を作成する。この検量線を用いて試料溶液の凝固時間の平均値から単位数  $U$  を読みとる。

本品 1 容器中の単位数 =  $U \times 10 \times V$

$V$  : 本品 1 容器中の内容物を溶かした mL 数

別に内容物 1 mg 当たりの単位数を算出する。

#### 貯 法

保存条件 10 °C 以下で保存する。

容 器 密封容器。

有効期限 製造後 36 箇月。

## 豚脂

Lard

### ADEPS SUILLUS

本品はブタ *Sus scrofa* Linné var. *domesticus* Gray (*Suidae*) の脂肪である。

性 状 本品は白色の柔らかいなめらかな塊で、わずかに特異なおいがあり、味は緩和である。

本品はジエチルエーテル又は石油エーテルに溶けやすく、エタノール (95) に極めて溶けにくく、水にほとんど溶けない。

融点 : 36 ~ 42 °C (第 2 法)

脂肪酸の凝固点 : 36 ~ 42 °C

酸 価 2.0 以下。

けん化価 195 ~ 203

ヨウ素価 46 ~ 70

#### 純度試験

(1) 水分及び着色度 本品 5 g を水浴上で加熱して溶かすとき、液は澄明で、水分を分離析出しない。また、この液を 10 mm の層として観察するとき、無色~わずかに黄色である。

(2) アルカリ 本品 2.0 g に水 10 mL を加え、水浴上で加温して溶かし、強く振り混ぜる。冷後、分離した水液にフェノールフタレイン試液 1 滴を加えるとき、液は無色である。

(3) 塩化物 本品 1.5 g にエタノール (95) 30 mL を加え、還流冷却器を付け、10 分間煮沸する。冷後、ろ過し、ろ液 20 mL に硝酸銀のエタノール (95) 溶液 (1 → 50) 5 滴を加えるとき、液の混濁は次の比較液より濃くない。

比較液 : 0.01 mol/L 塩酸 1.0 mL にエタノール (95) を加えて 20 mL とし、硝酸銀のエタノール (95) 溶液 (1 → 50) 5 滴を加える。

(4) 牛脂 本品 5 g をジエチルエーテル 20 mL に溶かし、脱脂綿でゆるく栓をして 20 °C で 18 時間放置し、析出する結晶をとり、エタノール (95) に浸し、200 倍で鏡検するとき、ひし形板状の結晶が不規則に集まったものを認めても、柱状又は針状の結晶が扇形に集まったものを認めな

い。

#### 貯 法

保存条件 30 °C 以下で保存する。

容 器 密閉容器。

## ナタネ油

Rape Seed Oil

### OLEUM RAPAE

菜種油

本品はナタネ *Brassica campestris* Linné subsp. *napus* Hooker fil. et Anderson var. *nippo-oleifera* Makino (*Cruciferae*) の種子から得た脂肪油である。

性 状 本品は微黄色澄明のやや粘性の油で、においはないか又はわずかににおいがあり、味は緩和である。

本品はジエチルエーテル又は石油エーテルと混和する。

本品はエタノール (95) に溶けにくい。

比重  $d_{20}^{20}$  : 0.906 ~ 0.920

酸 価 0.2 以下。

けん化価 169 ~ 195

不けん化物 1.5 % 以下。

ヨウ素価 95 ~ 127

貯 法 容 器 気密容器。

## ナファゾリン・クロルフェニラミン液

Naphazoline and Chlorpheniramine Solution

本品は定量するとき、硝酸ナファゾリン ( $C_{14}H_{14}N_2 \cdot HNO_3$  : 273.29) 0.045 ~ 0.055 w/v% 及びマレイン酸クロルフェニラミン ( $C_{16}H_{19}ClN_2 \cdot C_4H_4O_4$  : 390.86) 0.09 ~ 0.11 w/v% を含む。

#### 製 法

硝酸ナファゾリン	0.5 g
マレイン酸クロルフェニラミン	1 g
クロロブタノール	2 g
グリセリン	50 mL
精 製 水	適量
全 量	1000 mL

以上をとり、溶解混和して製する。

性 状 本品は無色澄明の液である。

#### 確認試験

(1) 本品 20 mL に水酸化カリウム溶液 (7 → 10) 2 mL 及びピリジン 5 mL を加え、100 °C で 5 分間加熱するとき、液は赤色を呈する (クロロブタノール)。

(2) 本品 10 mL を共栓試験管にとり、エタノール (95) 10 mL、水酸化ナトリウム試液 2 mL 及び塩化銅 (II) 二水和物のエタノール (95) 溶液 (1 → 10) 1 mL を加え、振り混ぜるとき、液は青色を呈する (グリセリン)。

(3) 本品 20 mL に水酸化ナトリウム試液 5 mL を加え、ジエチルエーテル 10 mL で抽出し、ジエチルエーテル層を分取する。この液 5 mL をとり、溶媒を留去し、残留物をメタノール 5 mL に溶かし、試料溶液とする。別に硝酸ナファゾリン及びマレイン酸クロルフェニラミン標準品 0.01